

大賞  
100万円

ジャーナリズム X アワード  
Journalism Award

(募集締切: 3月17日)

## 第1回「ジャーナリズムX (エックス) アワード」

市民の視点でジャーナリズムの新しい形を探り、応援します！

運営する側、選ぶ側に現役のジャーナリストを入れていないことが大きな特徴です。市民社会で幅広い経験を持つ人たちが、これから現れようとするジャーナリズムを応援するという形で、多様かつ柔軟にジャーナリズムの未来を探りたいと考えています。

問題解決の道をひらく優れた【コンテンツ】  
情報伝達・交換を活性化する【プラットフォーム】

既存のジャーナリズム賞同様、隠された問題を掘り起こす調査報道や、地道な取材活動を積み重ねた記事・書籍など内容・コンテンツ【中身】を評価するとともに、社会訴求や相互コミュニケーションのための媒体・プラットフォーム【器】も評価対象とし、それら両面のいずれか、あるいは両面のシナジー（相乗効果）を実現した取り組み成果の応募を呼びかけます。

### ◆応募対象

自薦・他薦を問わず、またアマ・プロも年齢・国籍も問わず、フリーランスや学生を含む個人、非営利組織、民間企業など、何かを伝え共有して自由で公正な社会を実現しようとするすべての人と団体が応募できます。ただし、政府機関・政府関連組織は対象外。

### ◆活動対象

#### 1) 対象となる分野

日本で自由で公正な社会を創るために必要なジャーナリズムであり、「中身（内容・コンテンツ）」と「器（媒体やプラットフォーム）」両面のいずれかにおける注目すべき取り組み、または両面のシナジー（相乗効果）を実現した取り組みを対象とします。

#### 2) 対象となる期間と事業

◇対象となる期間：2019年1月1日から12月31日

◇以上の間に発表された成果物、その期間に実施された取り組み、あるいは利用可能な形で公開された仕組みや機能（アプリ等を含む）など、様々な切り口の活動の応募をお待ちします。

#### 【想定例】

- ・ 既得権益によって隠された問題を掘り起こす調査（探査）報道が、課題解決への道を拓いた事例
- ・ 社会問題について市民が自ら考え、自ら行動を起こそうとする意識を育て合うための操作性に優れたデータベースやオンラインプログラム
- ・ 各地の市民アクションをつなぎ、活動の実効性を高めるプラットフォーム
- ・ 書籍や報告書の刊行と、内容の社会訴求と、取り上げられた課題の解決とを一体的・有機的に組み合わせて成果を生み出す試み

### ◆賞と賞金について

ジャーナリズムX賞（大賞1件） 賞金100万円

ジャーナリズムY賞（次点1件） 賞金30万円

ジャーナリズムZ賞（審査員奨励賞1件） 賞金10万円

### ◆公募期間

2019年12月24日 公募開始～2020年3月17日 募集締切

応募は公式webから



## 【ジャーナリズムX（エックス）アワード公募の背景】

SNSなどにより、マスメディアに頼らなくても市民同士が情報を伝達・交換し、行動へつなげることが可能となった現在、情報の受信側と発信側の双方に努力と工夫が必要になってきています。こうした中、ジャーナリズムには権力を監視し、市民に事実を知らせるといった伝統的な役割に加えて、市民の力を強め、連帯（ネットワーク）や主体的行動のきっかけを作るといった、これまでにない機能や要素も求められるようになりました。新しい時代に、健全なジャーナリズムが力をつけていくためには、その中身（内容・コンテンツ）と器（媒体やプラットフォーム）の両面で進化／深化が必要不可欠と考え、その両面を取り上げられるアワードを創設しました。

## 外部選考委員

### 田口一成（株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長）

1980年生まれ。福岡県出身。大学2年時に栄養失調に苦しむ子供の映像を見て「これぞ自分が人生をかける価値がある」と決意。早稲田大学在学中にワシントン大学へビジネス留学。株式会社ミスミにて入社後25歳で独立し、ボーダレス・ジャパンを創業。世界9カ国で30社のソーシャルビジネスを展開し、2018年度の売上は49.2億円。2018年10月には「社会起業家の数だけ社会課題が解決される」という考えのもと、社会起業家養成スクール、ボーダレスアカデミーを開校。年間100社のソーシャルベンチャーが生まれる社会起業家のプラットフォーム構築を目指すユニークなビジネスモデルは2019年度グッドデザイン賞を受賞。2019年日経ビジネス「世界を動かす日本人50」、Forbes JAPAN「日本のインパクト・アントレプレナー35」に選出。



### 林怡媛（リン・イーシェン）（立教大学社会学部准教授）

台湾台南市生まれ。国立台湾大学社会科学学院新聞研究所修士課程修了。東京大学大学院人文社会系研究科・社会文化研究専攻・社会情報学専門分野修士課程、博士課程修了。博士（社会情報学）。専門はジャーナリズム、オルタナティブ・メディア、エスニック・メディア研究。主な業績に「台湾の『報導者』(The Reporter)——市民社会の発展、メディア改革の社会運動、そして非営利調査ジャーナリズムの誕生」花田達朗編『探査ジャーナリズム／調査報道——アジアで台頭する非営利ニュース組織』（共著書、彩流社、2018年）、『台湾のエスニシティとメディア——統合の受容と拒絶のポリティクス』（単著、立教大学出版会、2014年）、「管理職からみた『フリーランス』の理想と現実」『テレビ報道職のワーク・ライフ・アンバランス——13局男女30人の聞き取り調査から』（共著書、大月書店、2013年）、「華僑・華人の樹」『放送番組で読み解く社会的記憶——ジャーナリズム・リテラシー教育への活用』（共著書、日外アソシエーツ、2012年）、「震災報道の『顔』——河北新報の情報源を検証する」『新聞は大震災を正しく伝えたか』（共著書、早稲田大学出版部、2012年）、「ドキュメンタリー映像は社会的対話を生むか——台湾植民地統治をめぐる二作品から考える」『世界』801号（2010年）などがある。



## 運営団体

ジャーナリズム支援市民基金は、「自由で公正な社会を創るジャーナリズムを市民が応援する」ことを目的・目標として、2019年3月に設立されました。営利・非営利・個人・団体を問わず様々な形のジャーナリズムが本来の力を発揮するために、本アワードに加え、プロジェクト助成と組織基盤支援などを今後の事業予定としています。

### 運営幹事



星川 淳（代表幹事）  
一般社団法人アクト・ピ  
ヨンド・トラスト代表理  
事、作家・翻訳家



大津 愛梨  
O2Farm渉外・六次産業  
化部長、NPO法人田舎の  
ヒロインズ理事長、里山  
エナジー株式会社代表取  
締役社長、一般社団  
GIAHSライブ阿蘇理事



奥田 裕之  
未来バンク理事



関本 幸  
NGO広報・コミュニケー  
ション



寺中 誠  
東京経済大学教員

### 運営アドバイザー



大高 健志  
MOTIONGALLERY代表  
、POPCORN共同代表、  
さいたま国際芸術祭キュ  
レーター、映画プロデ  
ューサー



鈴木菜央  
NPOグリーンズ代表、  
greenz.jp編集長

詳細・応募は公式webから ▶▶▶



<https://jxaward.com/>

<https://www.facebook.com/journalismXfund/>

### 【お問い合わせ】

ジャーナリズム支援市民基金（担当：美濃部、河野）  
メール: [info@jxaward.com](mailto:info@jxaward.com)